

分苑たより

なごみ

大本
名古屋分苑

玉串も持参いたしますので事務所前に三宝を用意してあります。

行事報告

一月一日	参拝者	四十三名	(土)
斎主	祭員	高嶋	善雄
斎員	祭員	妹尾	正治
斎員	典礼	日比	達朗
斎員	伶人	影近	博己
斎員	伶人	小林	清人
斎員	方裏	畠山	茂美
斎員	行進	飯田	岡田
斎員	五十川	松子	幸子

●月次祭

一月十六日（日）
参拝者 二十八名



祭員	祭員	祭員	祭員
小佐々昌	影近博己	小佐々昌	日比達朗
典礼	裏方	青山	佐古美鈴
伶人	伶人	飯田直美	佐古美鈴
伶人	伶人	長谷川美枝	伊藤久仁男
進行	併せて、成人式祝詞が奏上さ れた。新成人の皆様おめでとう	青山	佐古美鈴

祭員	祭員	祭員	祭員
小佐々	影近	博己	達朗
小林	青山	将士	日比
清人	飯田	直美	
将士	長谷川	美枝	
飯田	佐古	美鈴	
直美	伊藤久仁男		
青山			
将士			
飯田			
長谷川			
佐古			
美鈴			
伊藤久仁男			
進行			
伶人			
典礼			
裏方			
小佐々			
影近			
博己			
達朗			
日比			

皆様について、人型活動の最中で新型コロナウイルスが蔓延して現在は大変な時期になっていますご苦労様です。

新年祭ではお茶席・直会とやつと元の姿に戻ろうとした矢先で大変ガックリしてしまいます。直会まで祭典という決まりが二週間の間で愛知県だけ千四百人がコロナウイルスに感染され急遽、一月月次祭の直会は中止とさせていただきました。

人型活動の時期なので2月一日火曜日・三日木曜日は分苑は日直者を駐在します。三日の人型受付は午前十時で受け付けを閉めますので、それまでに分苑に届くように宜しくお願い致します。

十時に終了してその人型と古いお札を持って綾部に行かさせていただきます。預かり

皆様方の健康は皆様たち個人で管理して頂きまして、これからの方苑行事に参加していくただくようお願いいたします。

本日の参拝誠にありがとうございましました。

※一月二十一・二十三日の教本三級認定講習会はコロナ感染防止のため中止となりました。



新序

弥富支部

加祥

加祥
杏也

那



「プラスの気が増えると免疫力が上がり、減ると病気になる」

古来、「病は気から」という言葉があります。

気とは何でしょうか。例えば、自分がちょっと落ち込んでいる時のことを想像してください。やる気が出ない、生きる気力がない、その気にならない、こんなふうに「気」が登場しますね。気というのは「生命の源」です。血液と違つて日には見えませんが、全身を駆け巡るエネルギーであり、常に私たちの体を出入りしています。気は自然界に普通にあるものです。気を取り入れる力が上がるとなにかに取り組む力が湧き、気を取り入れる力が下がると病気になつたりします。

気はその場面ごとにいろいろな言葉に変化します。意欲とか生命力とも呼ばれますが、西洋ではスピリットとかプラーナと呼ばれることがあります。気という言葉には、欧米人には理解しにくい日本人特有のニュアンスがあります。彼らが学んできた西洋医学の範疇の外にあるからでしょうか、海外の研究者たちが来日して氣功を学ぶとか、気のエネルギーを研究する日本の学者とコラボレーションする話をよく耳にします。

実は日本以上に、欧米では気についての研究が盛んです。ひょっとしたら、「kawaii」（かわいい）という言葉と並んで、「ki」という言葉が海外で当然のように使われる日がやつて来るかもしれません。気軽で自在なイメージを持つ気ですが、私たちは気をうまく使いこなすことが必要です。なぜなら、気は生命エネルギーである以上、その人の感情を大きく左右するからです。

気というのはその時の状況で、プラス（正・陽）になつたりマイナス（邪・陰）になつたりします。常にどちらか一方であることはないのです。

三月五日（土）
月始祭 午後一時半より

日直連絡会議

祭務部会議、直心会総会

※二月二十六・二十七日の東海サミットはコロナ感染防止のため中止となりました。

言葉の力 その③

特任宣伝使 妹尾 正治

皆さん、ユーモアは好きですか？大本の話に笑いは必要ないと思っている人が有つたら、それは時代遅れです！ユーモアは消化薬です、堅い話をしてもそのままでは聞く人は消化不良を起こします、かといってユーモアだけでは、場末の芸場になってしまいます。

皆さんは松竹新喜劇をご覧になつた事がありますか？当

時は毎週「松竹新喜劇」の舞台がテレビで流れています。チヨット間が抜けた丁稚役の藤山寛美さんがさんざん笑いの渦を巻き起こすのですが、終幕が近づくと世間の不義理をたしなめ、愛と人情の温か味を説教し始めます、その頃私の涙腺はだらしなく緩み、涙と笑いで（どんな顔をしていたのかな）クシャクシャになつていたのを思い出します、笑いの中で「道徳」の授業を受けていたのかも知れません。

その道徳ですが『因果応報』と云う四字熟語を紐解くと、良い事をすればより良い事を招き、悪い事をすれば何時か悪い事が身に降懸かると云う意味になります、歴代教主様も「善言美詞・善行」の大切さを常々説いて下さっています。

『因果応報』をユーモアを足して易しく語るところなります。

『ある日』主人は会社で面白くない事が有り、家に帰つて奥さんに当たり散らかします、奥さんはどうして旦那からそんなことを聞かされなくてはいけないの？とムカムカします。そこで飼い猫を蹴飛ばしました、猫はたまつたものじゃないと、ネズミを見つけて追い回します、散々いじめにあつたネズミは八つ当たりで主人のネクタイをかじつてやりました』めでたしめでたし！